



TEFLで学んだこと —活動づくりについて—

愛知地区英語サークル
日進市立西小学校
2014年11月20日(木)

松井孝彦(愛知教育大学附属高等学校)



0. はじめに

■ 今回のテーマ

- TEFL (Teaching English as a Foreign Language) Course で学んだことから...
 - ✓ Learning Styleについて
 - ✓ Learning Pyramidについて
 - ✓ Task-based Activityについて



0. はじめに

- Warm-up: Hands-on Activity

- LSD (Last Sentence Dictation)

1. 教師が教科書を読む。生徒はShadowingをする
2. 教師が読むのをやめる。
3. 教師が読んだ最後の文を生徒が Dictationする

- ※ 授業のどの場面でも使用可。

- ※ 授業の最初に小テストとして行うこともできます



0. はじめに

- Warm-up: ちょっと考えてみてください

T: "What day is it today?"

S: "It's Thursday."

S:に対するBetterな対応は？

- 教室のディスコース, IRE構造(Initiation – Response, Reply – Evaluation)との関連を考慮に入れて。
- 「習得」と「活用」を視野に入れた対応を。



0. はじめに

- TEFL (Teaching English as a Foreign Language) とは...
 - [英語を第一言語としない国に住む人たちに]
英語を外国語として教える資格[教授法]
 - ✓ 教科書がない中、資料収集やカリキュラム構成、
単元構成、1時間の授業構成を行う方法を学びます。



1. Learning Style

- 学習スタイル(様々な定義がありますが...)

- ✓ Visual (視覚型)

- 目からの情報で学習をすることが得意

- ✓ Auditory (聴覚型)

- 音声を使って学習をすることが得意

- ✓ Kinesthetic (身体動作型)

- 身体的な動作と結び付けて学習をすることが得意

※ 参考: 英語学習手帳2015専用ウェブサイト
<http://www.kandagaigo.com/elp/>



1. Learning Style

■ 学習スタイル + a

- ✓ Visual (視覚型)
- ✓ Auditory (聴覚型)
- ✓ Kinesthetic (身体動作型)
- ✓ Modeling (モデル提示)
- ✓ Eliciting (情報を引き出す)
- ✓ Concept Checking (概念や理解の確認)
- ✓ Localization (地域の特定化)
- ✓ Personalization (個性化・個人化)



1. Learning Style

- では、グループでできる限りの項目を含んだ活動を考えてみてください
 - ✓ Visual（視覚型）
 - ✓ Auditory（聴覚型）
 - ✓ Kinesthetic（身体動作型）
 - ✓ Modeling（モデル提示）
 - ✓ Eliciting（情報を引き出す）
 - ✓ Concept Checking（概念や理解の確認）
 - ✓ Localization（地域の特定化）
 - ✓ Personalization（個性化・個人化）



2. Learning Pyramid

■ 学習効果のピラミッド

- 異なる学習方法による学習定着率の違いを示したもの
- ピラミッドの下にある方法ほど学習定着率が高く, 上にいくほど(その時は理解できたとしても)定着率が低い
- × 数値にはいろいろな説がある
- × 元々は理論的モデルであり, 実践的なモデルではなく, 数値の裏付けとなる実証実験は行われていないという説
(Tales of the Undead...Learning Theories: The Learning Pyramid(ACRLog; 2014/1/13))



2. Learning Pyramid

■ 学習効果のピラミッド

- ✓ 普段の授業では、どこがメインになっているでしょうか
- ✓ 普段の授業に、どのような工夫を加えることができるでしょうか



3. Task-based Activity

- TEFLにおけるGrammar approaches

- ✓ Text-based

- Textを用いる。年齢が高い学習者向き

- ✓ Test-Teach-Test

- 診断的→教授→形成的(総括的)

- ✓ Context-Building

- 絵や写真を見せ, Pointを押さえていく

- 日本ではPPPが主

- Presentation(導入) – Practice(練習) – Production(使用)



3. Task-based Activity

- TEFLにおけるGrammar approachesでもPPPでも起こりうる問題点
 - ✓ 実際の言語使用場面で英語を用いることができない
 - ✓ 英語でどのように目的を達成するかが分からない



3. Task-based Activity

■ TBLT (Task-based Language Teaching)

細かな定義はありますが...

- ✓ 「●●の表現を使いなさい」「●●の文法を使いなさい」という指示がなく、『意味に焦点』があり,
- ✓ **実社会で実際に起こりうる言葉のやりとりを含み,**
- ✓ 四技能のどれかを必ず用い,
- ✓ **成果を示す**ことが求められる

活動のことを指します。(横山・大塚, 2013)

別紙:タスク例 (高島, 2000を参照)



3. Task-based Activity

- TEFLにおいても、
Test-Teach-Testの代わりに
Task-Teach-Taskを行うよう教授するところ。
(pre-task – Task – post task)
 - ※ Pre-task: 語彙, 文型練習
 - ※ Task: タスク活動
 - ※ Post-task: 明示的な文法, 表現指導



3. Task-based Activity

- 日本では教科書使用の義務

- 主な授業の流れ

- ① あいさつ

- ② ウォームアップ

- ③ 教科書

- ④ 展開・応用・発展

- ⑤ まとめ

- ⑥ 数單元ごとに大きなタスク活動 (横山・大塚, 2013)



3. Task-based Activity

- 日本では教科書使用の義務

- 可能であれば単元構成を...

- 第1時～第4or5時 教科書

- 第6時 教科書で扱われた文化的内容の発展・まとめ

- 第7時 タスク活動(使用できそうな言語材料を抽出)

- 第8時 タスク活動のまとめ



3. Task-based Activity

- では, 実際に一つタスク活動を。



4. 最後に

- TEFLでは、英語を使用できるようにすることを目的とします。
- 英語圏への留学の準備はまた別の目的。
- 教科書の選択も教師の自由。そのため、カリキュラム構成の能力や様々な文化的・個別的な背景をもった生徒への対応を考慮する能力を高めることが、教師に要求されるようです。



4. 最後に

- 今回は、先の3点についてご報告をしました。
- 他にも、pre活動（pre-listening, pre-reading, pre-speaking, pre-writing）の重要性を教えてくださいました。



参考図書

- 高島英幸編著 (2000)『実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導』, 大修館書店
- 横山吉樹・大塚謙二 (2013)『英語教師のためのフォーカス・オン・フォーム入門 成功するタスク&帯活動アイデア』「目指せ！英語授業の達人23」, 明治図書